

促成栽培ピーマンにおける天敵を活用したアザミウマ類の防除 ～スワルスキーカブリダニとタバコカスミカメの併用～

1. はじめに

本県の促成栽培ピーマンでは、薬剤感受性が低下したアザミウマ類（ミナミキイロアザミウマなど）が発生し、化学農薬



図1 タバコカスミカメ成虫

による防除が困難となっています。これまでに県内の一部地域で天敵製剤のスワルスキーカブリダニ（以下、スワルスキーと略記）が導入されていますが、アザミウマ類に対して十分な防除効果が得られない事例が見られました。近年、高知県や鹿児島県などのピーマン産地では、スワルスキーと土着のタバコカスミカメ（図1）を併用してアザミウマ類を防除する手法が用いられています。そこで、本県における有効性を確かめるため、御坊市の促成栽培ピーマンにおいて上記手法を導入したほ場を設け、天敵の定着状況を確認するとともにアザミウマ類の発生状況を慣行と比較しました。

2. タバコカスミカメについて

タバコカスミカメは、本県にも生息するカメ

ムシの仲間で、アザミウマ類やコナジラミ類を好んで捕食します。雑食性で、餌の虫が少ない場合でもクレオメやゴマを餌として繁殖することができます。2024年、御坊市内の露地栽培クレオメでは7月末からタバコカスミカメの飛来が確認され、9月18日には御坊市内6地点の平均でクレオメ1枝あたり28頭の生息が確認されました（図2）。

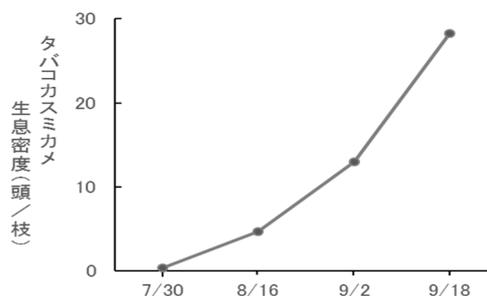


図2 御坊市の露地栽培クレオメにおけるタバコカスミカメの密度推移(2024年)

※枝の先端から約35cmまでのたたき落としによる虫数。
※各調査日における6地点(各20枝)の平均。

3. スワルスキーカブリダニとタバコカスミカメの併用によるアザミウマ類防除効果

天敵導入ほ場では、ほ場内に10本/10a程度のクレオメを植栽し、スワルスキー及びタバコカスミカメを放飼しました。その結果、天敵は

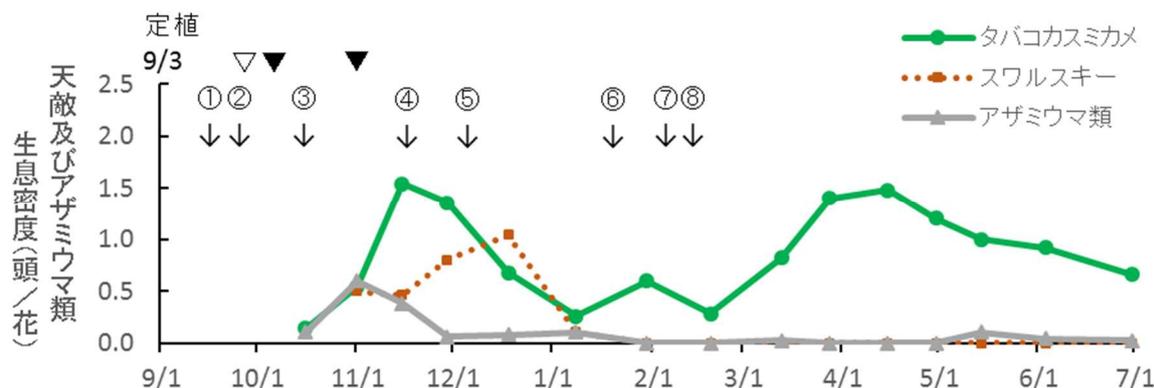


図3 天敵導入ピーマンほ場(面積約12a)における天敵及びアザミウマ類の密度推移(2024～2025年)

※図中の▽はスワルスキーの放飼、▼はタバコカスミカメの放飼、↓①～⑧は薬剤散布を表す。

▽:9/27 スワルスキー約50,000頭放飼

▼:10/5 タバコカスミカメ約700頭放飼、11/1 タバコカスミカメ約300頭放飼

↓:①9/16 ヨーバルフロアブル、スターマイトフロアブル、②9/24 プレオフロアブル、③10/16 ベネビア OD、④11/17 プレオフロアブル、ウララDF、⑤12/4 スターマイトフロアブル、⑥1/19 ウララDF、ベネビアOD、⑦2/11 ヨーバルフロアブル、⑧2/14 コルト顆粒水和剤

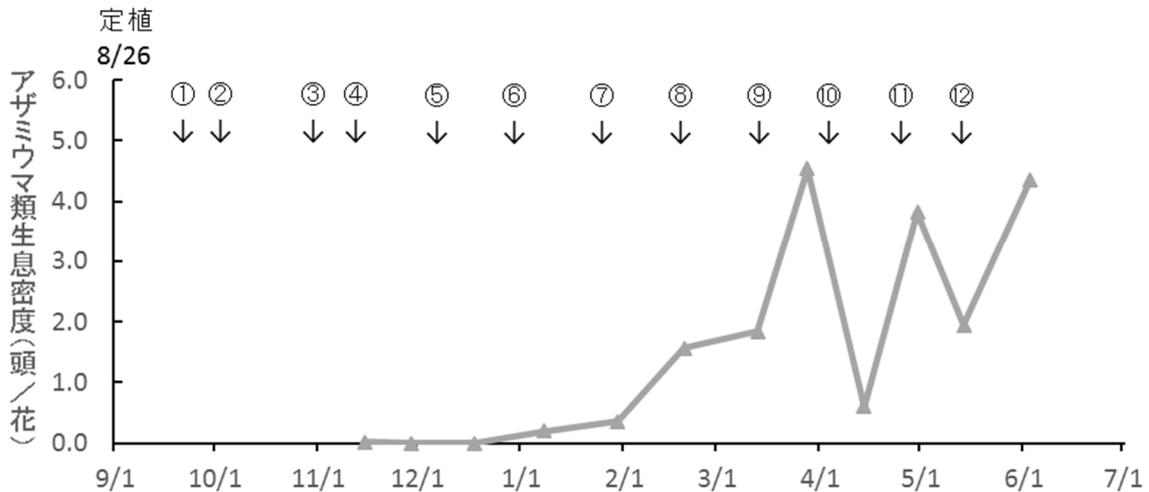


図4 慣行防除ピーマンほ場(面積約10a)におけるアザミウマ類の密度推移(2024~2025年)

※図中の↓①~⑫は薬剤散布を表す。

↓:①9/21 プレオフロアブル、ダニサラバフロアブル、②10/4 モベントフロアブル、③10/28 カネマイトフロアブル、スタークル顆粒水溶性、④11/12 アファーム乳剤、⑤12/5 コルト顆粒水和剤、アグリメック、⑥12/28 スタークル顆粒水溶性、ダブルフェースフロアブル、⑦1/25 コテツフロアブル、モベントフロアブル、⑧2/19 プレオフロアブル、アグリメック、⑨3/13 コテツフロアブル、⑩4/4 ディアナSC、ファインセーブフロアブル、⑪4/25 モベントフロアブル、アグリメック、⑫5/13 アドマイヤーフロアブル、グレーシア乳剤

両種とも定着が認められ、放飼開始1か月後からアザミウマ類の生息密度が下がり、その後栽培終期まで0.5頭/花以下に維持されました(図3)。

一方、慣行防除ほ場では、1月以降にアザミウマ類の生息密度が増加し、薬剤散布による密度低下は認められるものの、最大4.5頭/花まで増加しました(図4)。

4. おわりに

スワルスキーとタバコカスミカメを併用することにより、栽培期間を通してアザミウマ類の生息密度が低く抑えられる可能性が示されました。なお、同地域における事例を通じて、天敵放飼量の確保、天敵温存のための植物(クレオメなど)の植栽管理、天敵に影響のある農薬の制限などのポイントが重要だと考えられました。

(環境部 菅野伸哉)

【人事異動】一令和7年4月1日付け

「転入」

下村 美佐 (副場長)
 衛藤 夏葉 (環境部長)
 北原 伸浩 (環境部 主査研究員)
 小坂 悠介 (栽培部 研究員)
 楠 茂樹 (環境部 研究員 (臨時的任用))

「採用」

川端 杏衣里 (環境部 研究員)

「転出」

島 浩二 (研究推進課 課長)
 久田 紀夫 (鳥獣害対策課 課長補佐兼班長)
 岡本 崇 (経営支援課 主任)
 橋爪 聖太 (農林水産省農産局へ派遣)
 井溪 奏一朗 (鳥獣害対策課 技師)
 南方 千景 (経営支援課 技師)

農業試験場ニュース No.146

令和7年7月発行

編集・発行 和歌山県農業試験場

〒640-0423 和歌山県紀の川市貴志川町高尾160
 電話：0736-64-2300 (代) FAX：0736-65-2016
<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/gaiyou/001/nougyoushikenjyou/top.html>